

令和6年4月11日

飯田市教育委員会 様

飯田市これからの学校のあり方審議会

会長 後藤 正幸



飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について（一次答申）

令和5年5月25日付け5飯教学第251号にて諮問のありました、飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について、慎重に審議した結果、下記のとおり審議会として答申します。

## 記

## 答 申

人口減少・少子高齢化が進行し、社会の変化が激しく、複雑で予測困難な時代の中で、国は「令和の日本型学校教育」を掲げ、一人一人の児童生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を育成していくことを求めている。

このような状況を踏まえ、飯田市がこれまで取り組んできた「飯田の『キャリア教育』」「小中連携・一貫教育」「飯田コミュニティスクール」を相互に連動・充実させて、小中一貫校としての九つの「学園」で編成する「学園構想」については、児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすという視点から有効性を認めるものであり、妥当であると判断する。

なお、各「学園」において特色ある教育活動を進めるための体制づくりが必要であることや、それぞれの「学園」においては児童生徒数の減少や施設の老朽化が極めて著しい状況もあることから、「学園構想」を実現するにあたって以下の点について意見を付すので、これらを踏まえてさらに検討をしていくべきであると考えている。

## 付帯意見

- 学校・家庭・地域と十分協議して検討を進めること。
- 児童生徒数の減少や施設の老朽化が著しい「学園」における学校・施設の配置形態を含めたあり方検討を早急に進めること。
- 児童生徒を真ん中においた「学園構想」の実現を目指すこと。